

# 【予備試験論文過去問 答案例】

『論文合格講座』で使用する教材です。論文合格講座では、予備試験の論文全過去問と旧司法試験過去問を中心に扱い、問題文の読み方、論点の抽出の仕方などの実践的な解法スキルを身に付けていただきます。

①

## 【条文の文言】

条文の文言は**緑色**でマーク。

②

## 【コア知識】

コアノート掲載のコア知識該当部分は、**黄色**でマーク。

③

## 【問題文掲載の事実】

問題文に掲載されている事実は、**実線**で表示。

④

## 【事実に対する評価】

問題文に掲載されている事実を評価した部分を、**点線**で表示。

この他にも、各問題に応じて、**現場思考で考えるべき内容は青色**など、適宜マークを施しています。

2024 論文合格講座

答案例

第2 設問2

1 まず、Fの胸部を押し込んだ行為は「暴行」（238条）に当たらないとの主張が考えられる。

事後強盗罪の「暴行」とは、通常の強盗と同様に、財物の強取に向けられた相手方の反抗を抑圧する程度の強度の暴行のことをいう。そして、その判断は、**暴行・脅迫自体の客観的性質により、一般人を標準に判断する。**

甲の暴行は両手でFの胸部を一回押し込んだにとどまり、それ自体は一般人からみて相手に生命身体への危険性を感じさせるものではない。また、甲とFは共に35歳、女性であるが、Fは万引き犯の制圧にも対応する警備員であり、甲よりも体力的に劣ると考えられる事実はない。そうすると、甲の暴行は、Fの反抗を抑圧する程度の「暴行」とはいえない。

2 次に、甲の暴行は窃盗の機会に行われたものではないとの主張が考えられる。

事後強盗罪の暴行・脅迫は、窃盗の機会になされることが必要である。原則として、窃盗の機会といえるためには、時間的・場所的に窃盗行為に接着した範囲内で行われたことを要するが、多少の場所的・時間的離隔があっても犯人が現場から引き継ぎ追跡を受けているなど、窃盗の現場の継続的延長があるとみられる状況の下で暴行・脅迫行為がなされたときも、窃盗の機会であると評価できる。

3 本件では、甲は、その場から走って逃げ出し、E店を出てから約3分後、E店から約400メートル離れた公園にたどり着き、同所でE店から追ってくる人がいないかどうかをうかがっていたところ、約10分間誰も追ってこなかった。よって、Fの追跡を受けることなく逃走したと評価できる。

4 以上

44

LEC東京リーガルマインド

- 2 -

断断複製・頒布を禁じます

● コア各論 7 5  
● コア各論 7 6  
● コア各論 8 6  
● コア各論 8 7

Link

問題を解決するために欠くことのできない知識は、コアノートから導くことができます。

## 予備試験論文過去問答案例のPOINT

### フルカラーを採用

答案内で色分けを施し、答案がどのような構成でできているかを一目で把握することができます。

### 【コア】知識を使いこなす

合格答案を作成するためには「コア」知識を丸暗記するのではなく、理解をして問題に応じて使えるようになる必要があります。したがって、答案例をもとに、コアノート掲載の知識が答案ではどのように使われているのかを分析することで使いこなす方を修得していきます。未知の問題にも対応できる応用力を養成していきます。

### LEC専任講師が監修

答案の作成にはLEC専任講師が携わり、実際の合格者レベルを踏まえて、実践的に時間内に書き上げることができる内容となっております。

※教材はサンプルです。実際の教材とはデザイン・仕様が一部異なる場合がございます。